

第4回世田谷区外部評価委員会 議事要旨

【日 時】平成29年1月24日(火)午後7時00分～午後8時00分

【場 所】世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

【出席者】

委員 浅輪剛博、大森猛、齋藤啓子、柴田真希、高木史雄、沼尾波子、松田妙子、森岡清志(以上8名)

区 保坂展人区長、板谷政策経営部長、笹部政策企画課長、山戸庁内連携担当課長

【配布資料】資料1 世田谷区外部評価委員会の提言(案)

参考資料 世田谷区外部評価委員会小委員会第5回 議事録

【議事概要】

1. 開会

2. 世田谷区外部評価委員会の提言(案)について

(1) 説明

- 山戸庁内連携担当課長より、資料1「世田谷区外部評価委員会の提言(案)」に基づき、説明を行った。 -

(2) 外部評価委員からの主な意見

・ 特になし

3. 提言

(1) 提言の手交

(2) 委員挨拶

4. 閉会

(以上)

第4回世田谷区外部評価委員会 議事録
午後7時開会

1. 資料の確認

- 山戸庁内連携担当課長より、配布資料の説明を行った。 -

2. 世田谷区外部評価委員会の提言（案）について

（1）説明

- 山戸庁内連携担当課長より、資料1「世田谷区外部評価委員会の提言（案）」に基づき、説明を行った。 -

（2）質疑応答

（森岡委員長）

- ◆ 修正部分についてご意見のある方はお願いしたい。

（高木委員）

- ◆ 事前に資料をいただいているので、私の方からは特にございません。

（柴田委員）

- ◆ これまで議論も積み重ねているので、本日は確認のみだと思っています。

（松田委員）

- ◆ 同様に特に修正はございません。

（浅輪委員）

- ◆ これまで PDCA など私の指摘部分も反映していただいております、本日は特に修正などはございません。

（沼尾副委員長）

- ◆ 特に修正はございません。

（森岡委員長）

- ◆ PDCA サイクルの書き方や、評価の指標などずいぶん議論をして、このような表現に落ち着いたと思っています。委員の方のご協力に感謝いたします。

- ◆ 提言案に修正を加える必要がないということなので、本案のまま区長に提出させていただきます。
- ◆ 行政評価の見直しなど、区の方で引き続き改革をお願い致します。

3. 提言

- (1) 提言の手交
- (2) 委員のあいさつ

(松田委員)

- ◆ あっという間であったが、大変勉強をさせていただいた。
- ◆ プロセスを非常に大事にしてくださったことがうれしかった。プロセスも含めて検討していく中で「参加」と「協働」に着目した点が良かったと思っている。
- ◆ 評価はどちらかという元気奪うものであると思っているが、この評価を行うことが職員の皆さんのモチベーションにつながることを期待したい。どうもありがとうございました。

(高木委員)

- ◆ 前々回に事務局から言われた言葉で「気づき」という言葉があった。区内の地域で様々な活動している方々は、皆一生懸命取り組んでおり、行政も一生懸命やっていたかかないといけない。そのあたりを「参加」と「協働」の中で話させていただいた。
- ◆ この提言が出来たからといって状況がすぐよくなるわけではないが、この提言が職員の皆様の気づきにつながるとよい。この仕組みが継続して使われることを期待したい。
- ◆ 区民の声を聴いて検討を進めていただいたことには感謝している。どうもありがとうございました。

(柴田委員)

- ◆ 何年もかかって職員の方の信頼関係を築いても、人事異動によってそれが初期化されてしまうことが課題としてあげられたと思う。このため、異動の際には協働事業の結果だけではなく、職員の方々がその経過を可視化して、申し送ることが大切だという議論があった。また、頑張っている職員の方々の仕事の中で、数字としての成果や評価にならない部分、特にその事業の「プロセス」を浮き彫りにしたいということを議論してきた。
- ◆ さらに、我々のようなNPOが関わる事業は協働になることが多いが、「参加」と「協働」の定義がきちんとされていないことが多い。今回はこの「参加」と「協働」の整

理を丁寧に議論していただいたことを大変ありがたく思っている。

- ◆ 今後この評価書が評価だけではなく、地域のネットワークの拡大や、事業の新たな課題や視点を発掘するなど、多方面に活用されることを期待している。ありがとうございました。

(沼尾副委員長)

- ◆ どうもありがとうございました。この提言が、どう活かされるかは職員がどう受け止めるかにかかっている。私は自治体の職員研修の講師をよくやっているが、従来の職員研修では法令を詰め込んでそれをしっかりできるようにすることが重要とされていたが、最近ではファシリテーション研修や対話力、「参加」と「協働」に関わるような傾聴力、コミュニケーション能力などの研修が行われている。
- ◆ 行政はさまざまな政策課題に対応する際に住民に公平に対峙する必要があり、特定の団体と連携するわけにもいかないというジレンマがある。そうした中でも、これを機に、こういうシートをうまく活用してもらいたい。この中で、「参加」と「協働」を実現するためのスキルとして何が必要かも洗い出しているのだから、それを踏まえた職員研修も頑張ってもらいたい。
- ◆ シートを書く際にストレスを感じる部分があると思うので、使いにくい部分を洗い出して改善していただきたい。是非このシートを育てて、使い勝手の良いものにしていただき、「参加」と「協働」を進めていただきたい。

(大森委員)

- ◆ 民生児童委員協議会の立場から、区民代表の一人として基本構想審議会の委員になって取り組んでいた。基本構想が議決されてそれを卒業したと思っていたが、今回、もう一度外部評価委員会に区民代表として参加させていただいた。
- ◆ この分野の意見や提案力は乏しく不安であったが、委員の方のご尽力で良い評価シートができたと思っている。
- ◆ 委員にご指名頂いて感謝していると同時に、地域・地区において民生児童委員としての自らの評価シートを作って活動したいと思う。非常に勉強になった。ありがとうございました。

(浅輪委員)

- ◆ 基本計画や評価シートは立派なものでも、実際の実務に活かされてこそ本当に素晴らしいものになる。これが本当に習慣化されるか、PDCA サイクルを回していくことが重要である。このシートを埋めることが目的でなくて、積極的にアイデアが話し合われるためのネタになるのが大事だと思う。
- ◆ 経済成長が右肩上がり、きれいに分配すればそれで良いという時代が終わりつつあ

り欧米でも激動が起きている。それぞれの家庭に車や電化製品がそれなりに行き渡っている中で、あたらしい製造業、社会・経済のあり方が問われている。個人個人の所有物を豊かにする時代から、個人と個人の間にある生活の場である地域を豊かにする時代にシフトしていかなければならない。そこで「協働」が重要になる。文化と環境が重要になる。私がエネルギーシフトに取り組んでいるのもそういった意識で、保護主義やおまかせではなく、行政は PDCA を回して継続的に改善していき、地域も自分達で課題を発見して行政と一緒にやっていく。このように新たな道を探っていかななくてはいけない。協働や横断的連携、施策の機動的な修正・拡充により、世田谷から新しいモデルを生みだしたい。

(齋藤委員)

- ◆ 私はかつて区役所の都市デザイン室で仕事をしていました。ある意味、横断的なことをやるのが仕事であった。また、参加を新しく進めていこうということで色々なプロジェクトに関わってきた。当時研修室が課長や部長の宿泊研修をやり始め、市民参加を推進する体制をサポートした。今回、3つの新たな評価軸の中で、特に新しいと感じる視点は「施策の機動的な修正・拡充」だと思う。評価して修正していく、その原動力になるものを評価の中から読み取っていくということや、関係する人とじっくり深くなる、または広げるということで、変えていく主体に職員の方がなっていくということが良かったと思う。そういう職員の臨機応変な対応による機動的な修正・拡充ができるようになるためには、管理職の理解や、責任感、目標を明確にしていることなどが重要である。また、各セクションの連携の重要性という点では、互いに直に話せる部分が重要で、横断的連携もそうだが、「施策の機動的な修正・拡充」の部分では、研修の重要性が非常に高い。また、部課長の連携や新たなことに取り組む意欲のキープが重要である。このシートを書き込む際に、モチベーションを高めるためのものであるということを管理職の方が理解して欲しい。
- ◆ ユニバーサルデザイン環境整備審議会では、スパイラルアップということを含み言葉にして取り組んでいる。毎年度の実施事業と次年度の計画を評価しているが、その委員会の進め方も毎年少しずつ修正・拡充をして工夫している。スパイラルアップで、自分達が、この部分はクリアできているか、ということをはっきりさせることができたのは良かったと思っている。何か施策をやってとても良い結果になったというアウトカムがあるものに関しては、絶対にその理由がある。その理由をみんなで共有しようということが目的だと思うので、ぜひ、このシートを活用して、職員が自信をつけることにつながると良いと思う。

(保坂区長)

- ◆ 1年半にわたって熱心なご議論いただきまして誠にありがとうございました。最後の

修正も、参加と協働に関わる部分でありましたし、この部分について非常に深く議論していただいた。平成 25 年 9 月に世田谷区基本構想審議会の 25 人の委員で策定した基本構想における重点政策について、その経過を評価する新たな評価軸についてご議論していただきました。委員の皆様の話の中にもありましたが、この新たな評価軸をどのように今後使っていくのかがポイントである。基本構想の策定時にも、出来て終わりではなく、定期的に検証する機会を作ってほしいという意見が出た。この新たな評価軸をつかって、しっかりと進行管理ができているか、その評価も必要だと思っている。定期的に区民の目で区の実情を見ていただく機会が必要だと感じた。

- ◆ 現在、実施計画が最終年度を迎えている。自治の哲学から言えば、既存の事業を修正・停止、転換などの見直しが必要な時機である。再来年度に実施計画を策定予定であるが、この 1 年間で基本構想・基本計画に立脚をした実施計画を策定していきたい。その中で、外部評価委員会で議論したこの新たな評価軸の活用方法を検討していきたい。大変熱心なご議論をありがとうございました。今後、お会いした際には、この新たな評価軸による検証がどうなっているか聞いていただきたい。しっかりと今回のご提案の内容が進んでいくようにしたい。
- ◆ 区長に就任して新しい事業が増えているが、一方で人員は増えず多忙感が出てきているという声も上がってきている。今回の外部評価委員会でご議論いただいた点も参考にしながら、事業の点検を行っていきたい。

(森岡委員長)

- ◆ はじめに、委員の皆様にご感謝申し上げたい。非常に熱心に議論していただき、プロセスや「参加」と「協働」など、キータムをいかに活かすかについて真剣な議論をしていただいた。また、事務局は、そうした議論をもとに、さらに中でも相当な議論をしたと思うが、とても良い原案を作成していただいた。感謝したい。
- ◆ 職員の方がこの提言に基づいてどんどん成長していかれることを期待したい。基本構想でもふれたが、格差が大きくなり、多様化が進む中で、社会的包摂と住民自治の実現がますます重要になってくる。住民の側もいろんな情報を知って賢くなっていかねばならない。住民の側から地域社会の見える化を進めること、これが今後の課題である。

(板谷政策経営部長)

- ◆ 委員の皆様、ご意見をいただきまして誠にありがとうございました。どのように活用するかは職員次第、肝に銘じて庁内への周知を図ってまいりたい。現在、次期新実施計画の検討を進めているが、それに合わせて、行政経営改革も未来志向をコンセプトに新たに策定している。その中では、区の最大の資源である職員の成長を基本方針の一つとして掲げている。職員が考え、動くことを常に働きかけて行くことが重要であ

る。ちょうど長男が就職活動中であるが、就職活動パンフレットの中に、成功するためには、モチベーションとスキル、そしてアナライズが重要だと書いてあった。これは、職員として仕事をする上でも非常に大切なことである。今回、参加と協働という区政にとって永遠のテーマについて、プロセス重視で仕組みを作っていた。皆様の情熱を受け継ぎ、職員一丸となりとしてブラッシュアップしていきたい。長い間ご議論いただきまして誠にありがとうございました。

4 . 閉会

(以上)